

一般社団法人 日本医療催眠学会  
第10回学術大会

# Transformation

トランスフォーメーション

私たちはいかに進化し、貢献できるか

日 時 2023年10月29日(日) 10:00~18:00

会 場 國學院大學 渋谷キャンパス

130周年記念5号館

主 催 一般社団法人 日本医療催眠学会

大会長 大槻 麻衣子

## 第10回学術大会のご挨拶

白石 俊隆（日本医療催眠学会理事長、愛せる母・スピリチュアルクリニック）

第10回学術大会は、2023年10月29日(日曜日)に4年ぶりにリアル対面で、藤野敬介副理事長のお力添えをいただき、國學院大学 渋谷キャンパスにて実施されます。

2013年に萩原優先生、橋元慶男先生の御尽力にて創設された当学会は、今回私が理事長を拝命して初めての学術大会となります。この3年間あまりオンラインに慣れてきて、リアルでの人と人との触れ合いが希薄になりつつあるような気もいたします。医学会においても種々の学会開催はオンラインもしくはハイブリッド開催となっておりまして、今もまだその傾向が残っているかと思えます。オンラインでは、その場のエネルギーや画面の外の様子がわかりませんが、リアル開催である今回の大会は何か特別なエネルギーを感じられるのではないかと期待もしております。



新型コロナウイルス感染症によって掻き乱された社会を経た今、本大会長の大槻麻衣子副理事長は、「トランスフォーメーション(変容・進化)」をテーマとして選ばれました。まさに、今にふさわしいテーマであると言えると思います。これから人は、自然環境や人間関係の中で外からの影響を受け続ける存在であります。外からの影響を受けつつ、良い方向に変容・進化を自らの内側から創造していけると良いのかなと思います。また、本学会が「医療催眠」を扱っているということを鑑みるとこれからの時代の「医療」とはどうあるべきなのかを催眠を通して考えるための学会でありたいと私も思っております。

大槻大会長の選ばれた今回のテーマで開催される大会の内容が、医師やセラピストが共に協力し合って本来あるべき「医療」の姿を思い描きつつ、どのような変容と進化をするべきなのかを考える手がかりを与えてくれることを期待しております。大会の内容も大槻氏の幅広く素晴らしい人脈の中から、招待講演として「ハート・インテリジェンス：集合的変容の実現に向け、個人を進化させ、地球規模で貢献するための鍵」シェバ・カール博士、「ヒプノシス：在るは真実のみ 米国における催眠療法50年の軌跡」シェリー・ストックウェル博士、顧問講演として「人類進化とパラダイムシフト~覚醒する科学者たち」大門正幸顧問、などとても楽しみです。

どうか会員の皆さま、そして会員の皆様も一般の方をお誘いいただき、どなたでもご参加になれますので奮ってご参加くださいませ。

## 第10回学術大会開催にあたり

大槻 麻衣子（日本医療催眠学会副理事長、大槻ホリスティック）

本大会のテーマは「トランスフォーメーション（変容・進化）」です。時代の変わり目には混乱も困難も生じますが、人や社会が大きく成長するチャンスでもあります。

ひとりひとりがより良い未来を「共創」するために、ここに生まれてきていると捉え、本大会が、私たちが個人/セラピスト/団体として「いかに進化し」、より健やかな地球の未来のために「いかに貢献できるか」を考え、新たな出会いや、気づきやヒントを得ていただくきっかけとなればと願っています。



2013年に萩原優先生、橋元慶男先生によって創始された当学会は11年目を迎え、本学術大会は、白石俊隆理事長の下、新体制での「初」大会となります。また今年は、オンライン開催に切り替えていたコロナ禍を経て、コロナ後「初」、4年振りの対面開催となります。

久方ぶりのリアル開催は、チャレンジングな面も多々ありますが、これまで当学会を牽引くださった諸先生方やご協力・参加くださるすべての方へ感謝を込め、準備しております。

ご来場の皆様には、お昼休みに「シンギング・リン」のミニセッションや、「心拍変動測定」（ハートマス研究所のインナーバランスセンサーを用いて）などをお試し体験（無料）いただけます。また、夜の懇親会では、ぜひ普段会えない方々と交流し、楽しいひと時をお過ごしください。

盛沢山の日ですが、対面ならではの良さが、あらためて感じられる集いとなれば、幸いです。

## 「ハート・インテリジェンス：集合的変容の実現に向け、個人を進化させ、地球規模で貢献するための鍵」 "Heart Intelligence: The Key to Personal Evolution and Global Contribution to Achieve Collective Transformation"

シェバ・カール博士（ハートマス研究所、国連平和使者組織 Pathways To Peace）

### 【概要】

この度、日本医療催眠学会2023年学術大会において、“ハート・インテリジェンス”という新しい科学をご紹介できることを大変光栄に思います。心臓には脳があり、独自のタンパク質、神経伝達物質、支援細胞、独自の心臓神経系があり、私たちが自分自身だけでなく、お互いに、そして私たちの世界を最適にケアできるようにサポートしてくれるユニークな知性があります。心臓が収縮するたびに、心臓は全身にメッセージと栄養を送り、拡張するときにはその栄養を心臓に戻します。



古代アジアの知恵と医学では、心と知恵は常にハート（心臓）から来るものと考えられてきましたが、ハートマス研究所は、私たち個人の進化、私たちの集団的変容、私たちの世界的貢献のために、その知性を活用する新しい方法を示してくれる現代科学を私たちに与えてくれます。学術大会で日本の皆さんにお会いできるのを楽しみにしています。

### 【プロフィール】

東洋医学博士。鍼灸師。ストレスマネジメントとピークパフォーマンスの専門家。ハートマス研究所のヘルスケアプログラムの共同ディレクター。ヘルスケアプロバイダー/組織やNGO、オリンピック選手やエンターテイナーへのコンサルティング歴30年。イエール大学卒、ライラ社CRO。国連ピースメッセンジャー（平和使者）組織 Pathways To Peace 共同副会長。

## 「ヒプノシス：在るは真実、完全なる真実のみ、真実以外何もない～米国における催眠療法50年の軌跡」 "Hypnosis the Truth, the Whole Truth, Nothing but the Truth~50 years of Hypnotherapy in the U.S."

シェリー・ストックウェル・ニコラス博士（国際催眠連盟IHF 理事長）

### 【概要】

この半世紀の間に、ヒプノティスト（催眠士）は多くのことを学習してきましたが、学習した事柄の中には、最善の方法もあったでしょうし、最善ではなかった手法もあったかもしれません。この講演での私の役割は、その人が相談を受けに来た真の目的に到達でき、本当に求めていたものを得られるよう援助するための、最高最善の方法に焦点を当てることです。



IHF認定のインストラクターでもある麻衣子氏が、日本におけるヒプノセラピストの教育に尽力され、女性としてJMHAの副理事長に就し、本大会の大会長として私にお声掛けくださったことは喜びです。皆さんにライブ中継で繋がり、お話しさせて頂くことを待ち遠しく思っています。

### 【プロフィール】

国際催眠連盟(International Hypnosis Federation IHF)創立者・理事長。心理学博士。マスター・ヒプノティスト。臨床歴53年のアメリカにおける催眠療法の先駆者の一人。著書26冊。マインドフルネス、催眠、NLP、セフルヘルプ（自助）、コーチング等。全米トランスパーソナル催眠協会より「臨床貢献賞」を、ミッドアメリカ催眠学会より「ライフタイム・アチーブメント賞」等を受賞している。



## インナーガイダンス：CLの主体性と内発性を重視する『心の庭療法』25年の歩み

大槻 麻衣子（大槻ホリスティック、日本医療催眠学会 副理事長）

### 【概要】

臨床ヒプノセラピストとして約25年、心の癒しと人間的成長のための心理的支援に携わる発表者は、「自分にできる最善は何か」を胸に問い、“インナーガイダンス”（内なる導き）に沿って、「心の庭療法」を中心とする一連のメソッドを開発してきた。

本発表では、発表者が様々な師や手法に出会い、クライアントの潜在意識から多くを教えられ、施術者として自身が学び成長する中で、心理（イメージ）療法としての手法を紡ぎ出してきた過程を報告する。



### 【本文】

1990年代から学んだ倫理・宗教学とトランスパーソナル心理学を基礎に、ワイス博士をはじめ、ローズ博士等に学び、退行催眠・前世療法を実施していた発表者は、潜在意識にアクセスすることの恩恵に敬服しつつ、「催眠」という概念がもたらすデメリットを痛感した。催眠に入れるかというハードルを与えずに、誰もがより主体的に取り組み、内発的に自分本来の力を発揮できるよう促すための、より良いアプローチを探求した結果、ハートマス研究所の先端科学と呼吸法メソッド他、様々な瞑想法やコミュニケーション法、聖人の書や古代の叡智に出会った。

現在では自分でできるサステナブルなセルフケアと、クライアントが主体的に呼吸瞑想により潜在意識にアクセスしていく「ハートフルネス瞑想」や「心の庭療法」を通して、より多くの人が自己成就の道を歩めるための入り口を広げている。本発表では、インナーガイダンス（ハート・インテリジェンス）にいかに関わり、それに沿って歩むか、またそれをいかに促すか、についても検討したい。

## 精神科医診療における『心の庭療法』の実際

森 満（精神科医、日本医療催眠学会 理事）

### 【概要】

精神科単科病院に精神科医として勤務している発表者は、約2年前に「心の庭療法」に出会い、以後精神療法の一手法として主に外来診療にて用いてきた。

本発表では、発表者が行っている治療の流れを紹介し、同療法を用いた患者さんの事例を報告する。



### 【本文】

「心の庭療法」とは、各自の潜在意識に内在している安全な場、領域をイメージ化、意識化、言語化する過程で安心感や洞察が得られ、自己肯定感や自己信頼の回復に寄与する精神療法である。本大会の大会長である大槻麻衣子氏により2004年頃より生み出され、2016年からはその導入にコヒーレンス呼吸法（ハートマス研究所）を活用することで、より安全で着実な効果を示している。

今回、2021年10月～2023年10月の間に同療法を用いた約100名の患者さんのデータ及び不安障害と診断した40代女性の症例を提示し、同療法の適応や可能性を検討する。

# 感情の解放とワンダーチャイルドセラピーにより魂の望みに気付いた一例

吉田 栄美子（MOMO心のクリニック、日本医療催眠学会 理事）

## 【概要】

46歳の女性。既往歴は特になし。30歳で結婚するまで両親と母方祖母と暮らす、全員が過干渉であり、さらに愚痴の聞き役も担っていたことから、心の中に苦しみを抱え続けていた。自分の本当の望みがわからない、という主訴で受診され、1回目にカウンセリング・ハートフルネス瞑想、2回目にワンダーチャイルドセラピーを行った。その結果、抑圧された感情を解放して、本当の（魂の）望みに気付くことができ、進むべき方向がはっきりした。



## 【本文】

背景：自分の感情を抑圧してきた46歳女性

目的：自分の本当の（魂の）望みを知る

方法：1回目→カウンセリング、ハートフルネス瞑想 2回目→ワンダーチャイルドセラピー（どちらもオンライン）

結果：抑圧された感情を解放して、本当の（魂の）望みに気付くことができた

考察：心からの望みに気付くためには、抑圧された感情をまず解放することが大切であると考え、カウンセリングの中でその感情に気付いて頂き、解放することを行った。過去にヒプノセラピーを何度か行うも真っ暗なイメージしか浮かばなかったとのお話があり、ハートフルネス瞑想を行ってイメージの練習をして頂いた。このように潜在意識下のセラピーに対する準備を行ったことで、ワンダーチャイルドセラピーの効果がより高まり、本当の望みに気付くことができた。

結語：その方に応じた様々な手法を組み合わせることで、短期間で効果の高いセラピーを行うことができた

# 自己受容と次元上昇のプロセス～トランスフォーメーションの一例

新道 ゆみ（newme works、大槻ホリスティック）

## 【概要】

心の庭イメージ療法(以下、IT)で自分の心の内側に安心安全な領域を見つけることで得られる様々な恩恵、退行催眠によるインナーチャイルドの癒しと過去世との統合が進むにつれ、心の在り方と感じる景色も変化していったITの段階と次元上昇について。クライアント(以下、CL)自身がコヒーレンス呼吸法(以下、CB)から少しずつ育んでいった約2年にわたる自己受容と変容のプロセス。



## 【本文】

背景/目的：CBでベースラインを上げ、退行催眠に入る前にITを通して得られる相互の有益性と、CLが本質的な自己へ近付くと潜在意識領域も上昇した変化と効果を明らかにする。

対象/方法：18歳からパニック障害、精神科入院歴のある40代女性。2021年11月に大槻先生が初回を担当後、CBを用いた瞑想会やセミナーを受講しセルフケアとして実践。2022年12月から2023年6月までカウンセリングとヒプノセラピーを月に一度計7回実施。セッション前にも共にCBをし、ラポールと共鳴度を高めた。ITをポータルとして退行催眠療法を実施。

結果：CBの継続により心の安定感と回復力が向上。ITの景色も回を重ねる毎に影が消え、安心感と心地良さが広がっていった。自己共感力が育まれ、愛せなかったインナーチャイルドと過去を受容、魂の帰属する宇宙世との繋がりを深めたことで生まれてきた意味を悟り、人生を大きく捉え新たな目標ができた。

考察：繋がる潜在意識はCLの変容と共に進化していくこと、その恩恵は計り知れないと考える。

## 人類進化とパラダイムシフト～覚醒する科学者たち

大門 正幸（中部大学教授、バージニア大学客員教授、日本医療催眠学会顧問）

### 【概要】

臨死体験、神秘体験、ミディアム現象、生まれ変わり現象など、唯物論的世界観では説明できない現象の学術的研究が進んでおり、現象としての真実性は疑いようのない段階に達している。また、主として物理学の分野で、そのような現象の説明を試みた理論も多数提案されている。

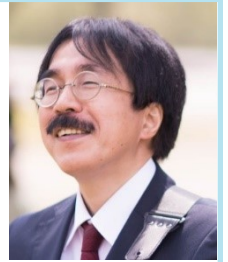
近年、これらの流れと並行して、科学者自身が自らの体験を「覚醒体験」として公にし始め、新たなパラダイムへの転換を軸とした、人類の意識の進化が進んでいるように思われる。このような潮流について私見を述べたい。

### 【プロフィール】

中部大学教授、バージニア大学客員教授、博士（アムステルダム大学、人文学）、人体科学会理事、日本スピリチュアル医学協会顧問。

日本における「生まれ変わり」研究の第一人者。

「『生まれ変わり』を科学する」など著書多数。シンガーソングライターとしても活躍中。



## 日本における医療催眠の実際、新たな取り組みと今後の展望

パネルディスカッション司会： 藤野 敬介（副理事長）

### 【概要】

当学会の名称にも使われている「医療催眠」という言葉の概念、具体的な意味、応用範囲等々について、催眠を治療に用いられている「ホリスティック・ドクターズ」にパネリストとしてご登壇いただき、ディスカッションを行います。

また、ドクターたちが催眠を取り入れて、どのような「新たな取り組み」をなされているかについてもお話をお伺いします。

そして、催眠を用いる医師として、今後どう進化できるのか、また、当学会が世間に対してどんな役割を果たし、貢献ができるかについても考えてみたいと思います。

### 【登壇者】

パネリスト：ホリスティック・ドクターズ

白石 俊隆（理事長） / 中野 三津子・星野 優子（理事） / 西口 裕（小児科医）





| 時 間                                       | プログラム（開演：10:00～終了：18:00）                                                                                                              |
|-------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10:00～10:10                               | 開会の言葉 理事長 白石 俊隆                                                                                                                       |
| 10:10～10:15                               | 大会長挨拶 副理事長 大槻 麻衣子                                                                                                                     |
| 10:20～11:40<br>〈米国より生中継〉                  | 【招待講演】 シェバ・カール博士<br>「ハート・インテリジェンス：集合的変容の実現に向け、<br>個人を進化させ、地球規模で貢献するための鍵」<br>司会：大槻 麻衣子／通訳：福濱 恵子                                        |
| 11:45～12:30<br>〈米国より生中継〉                  | 【招待講演】 シェリー・ストックウェル博士<br>「ヒプノシス：在るは真実のみ 米国における催眠療法50年の軌跡」<br>司会：大槻 麻衣子／通訳：福濱 恵子                                                       |
| 12:30～13:50<br>13:00～13:40<br>13:15～13:30 | =お昼休憩=<br>シンギング・リン体験／インナーバランスHRV（心拍変動）測定<br>理事会報告                                                                                     |
| 13:50～14:30                               | 【大会長講演】<br>「インナーガイダンス：CLの主体性と内発性を重視する<br>『心の庭療法』25年の歩み」 大会長／副理事長 大槻 麻衣子                                                               |
| 14:30～14:50                               | 「精神科診療における『心の庭療法』の実際」<br>理事 森 満                                                                                                       |
| 14:55～15:15                               | 「感情の解放とワンダーチャイルドセラピーにより<br>魂の望みに気付いた一例」 理事 吉田 栄美子                                                                                     |
| 15:20～15:40                               | 「自己受容と次元上昇のプロセス～トランスフォーメーションの一例」<br>会員 新道 ゆみ                                                                                          |
| 15:55～16:55                               | 【顧問講演】<br>「人類進化とパラダイムシフト～覚醒する科学者たち」<br>顧問 大門 正幸                                                                                       |
| 17:00～17:50                               | 【パネルディスカッション】<br>「日本における医療催眠の実際、新たな取り組みと今後の展望」<br>司会：副理事長 藤野 敬介<br>パネリスト：ホリスティック・ドクターズ<br>理事長：白石 俊隆 / 理事：中野 三津子・星野 優子 /<br>西口 裕（小児科医） |
| 17:50～18:00                               | 閉会の言葉 副理事長 藤野 敬介<br>副理事長 大槻 麻衣子                                                                                                       |

お問合せ：一般社団法人日本医療催眠学会 大会事務局 taikai.jmha@gmail.com

お申込みはこちらから

所在地：150-8440 渋谷区東四丁目10-28 國學院大學渋谷キャンパス

若木タワー13階 1312（藤野敬介）研究室 内

TEL：070-4388-7102

